

# ミサゴ便り

平成 16 年 4 月 10 日発行

弓削野鳥の会編集発行

ついに見たぞアオバトを！ 平山和昭

バードウォッチングを始めて以来念願だったアオバトをついに見た！2004年四月の弓削野鳥の会「定例バードウォッチング」は、お天気の良さに誘われ、狩尾方面観察の予定を変更し三山へ行くこと

に。三月来、タキを観る会員があわよくい。気持ち  
和。参加者



キクイダ  
察してい  
いるので、  
ば、との思  
のいい日  
一同のん

びり観察していると、上空にアオバトの群が飛来。「みてごらん！たしかにアオバト！」興奮して年甲斐もなく声がうわずる。どうしようもない。「やっと、ともかくお目にかかることができた」それだけで自分にはたいした収穫でありました。色、飛ぶ姿勢、大きさ……。まずまずインプットできたような気がする。その日はオオタカ(?)

も一羽通り過ぎていった。帰路、鯨地区の谷で紅い胸のハイタカ・雄も木陰に止まっているのをじっくりと。一週間後の21日、ひとりで同じ場所（沢津地区を見下ろす七曲がり）にいきました。いいことがあるとやっぱり裏を返したくなる。つい二匹目のドジョウをさがしに行くものですねえ。柳は無くドジョウも山の中とてのぞめませんでした、かわりにという

か、タカが林につっこんだのです。

とみるまに、飛び姿でそれとわかつたアオバトが飛び出してきた。

タカは反転して追いかける素振



りを見せましたがあきらめ、飛び去ってしまいました。数秒の出来事。口を開けて空を見ていなければ決して遭遇しない。しばらくして、さきほど鳩がとびだしたあたりをなんとなく見ると、ん？裸木の中に何かとまっている。すばやくスコープをセットしのぞき込む。いました。いましたヨオ……。綺麗な黄緑色をしたアオバトが3羽、ちょこなんというではありませんか。距離にして200メートルくらいかな。こんどこそじっくりおがませていただきました。車に戻りラジオを聞いたり、また覗いたり。そうこうしていると山田さんが毎朝恒例のお犬様の散歩にあらわれ、証拠写真はありませんが

確かに4個の目玉でシャッターをきりました。ヤッホ～！

あのタカはやはりオオタカらしく、大小2羽がまた現れ、こんどは高く高く、巴凧を描きながら昇っていき、やがて四国の方向めざして帆翔していきました。おそらくツガイのタカで、ハネムーンを迎える季節になったのでしょうか。あちらこちらでオオタカの繁殖地が狭められていると聞きます。石山のハヤブサのように、この弓削の山がオオタカの繁殖地になればいいと思うのは、甘すぎる夢物語にすぎないのでしょうか。(アオバト写真提供：竹林清志さん)

### 1月18日 町外遠征（笠岡干拓地） タゲリを見に行こう

思ったより寒さも和らぎ、防寒着で丸まった服装では、暑すぎたぐらいの陽気となった1月18日、早朝から12名の会員が集り、笠



岡目指して出発しました。1時間ほどで目的地に到着、早速、目的のタゲリを探しました。なかなかすぐには見つからず、とりあえず、確実に観察すること

ができる水鳥を狙いに、近くの水源地に行ってみることにしました。水鳥は寒そうに遠くに群れをつくって、池に浮いていました。コガモ、カイツブリ、ミコアイサ、ヨシガモ、カンムリカイツブリ等、

弓削では見ることの出来ない水鳥をゆっくりと観察することができました。1時間程で水源地を後に、目的のタゲリ狙いに干拓地をブラ

ブラと車を走らせていたところ、キラキラ光る翼の群れを発見、一見すると猛禽類に降り立った。念願のタゲリでしぶりの遭遇で、く思われました。




の飛翔で、畑よく見ると、はないか、久とても懐かし緑色の背中に

金箔銀箔を散りばめた豪華絢爛な容姿にうっとりしました。美味しいうどんの昼食後、笠岡周辺を海岸沿いに帰り、因島の喫茶店「カズン」にて鳥合わせと反省会の後、解散しました。とても有意義な楽しい1日を過ごすことが出来ました。

## 町外遠征に参加して(1)

松本 萌

今日、バードウォッチングでおか山のかさおかに行きました。はじめにひろい池で水鳥を見ました。はねのきれいな、いろいろなしゆるいの水鳥がたくさんいました。時々もぐってえさをとっていました。つぎに広いはたけのところに行き、ゆげにはい  
  
ない「タゲリ」というとりを見ました。とてもはねが  
きれいであたまの上のはねがシャキーンとたっていてとてもおもしろ

ろかったです。人間でいうと「ねぐせ」のようでした。つぎに池のある公園に行きました。池には白ガチョウとアヒルとカモの仲よしトリオがいました。3びきにせんべいをあげるとすぐに食べてしまいました。白ガチョウの口もとがちょっとふくらんでいたのので、私は「たんこぶ」と名まえをつけました。また、バードウォッチングでいろいろな鳥を見たいです。

## 町外遠征に参加して(2) 岡村美恵子

今年の町外遠征は岡山の笠岡の干拓地ということで期待して行きました。以前に松永の河口湾で種々のカモ類を観察し種類の多さに驚きました。その時と比べて見ると、笠岡での種類の少なさに少し意

外な感じを受けました。しかし、この時期に毎年、当然のように渡ってくるカモ類に安心しました。それにタゲリの群れもはじめて観察でき、タゲリの全身の



配色が地味なパッチワークを思わせ、生き物とは思われない愛らしさを感じました。今回のバードウォッチングで当然のことだが、季節によって羽の色が違うことを知りました。今まで自然の中で観察した羽の色と野鳥図鑑の羽の色が違うとつい戸惑ってしまい、1羽

の鳥を識別するのに時間がかかってしまいます。いつまでたってもなかなか鳥の名前が覚えられません。これからは、その点についてもよく注意して、姿は見えなくても鳴き声で何の鳥かわかるようになりたいものです。(イカル写真提供：松本敏和さん)

## 石 山 で ハ ヤ ブ サ 上 森 エ ミ コ

2月22日のバードウォッチングは、町の行事や出初式等で参加者が3名ということで、平山さんの提案で、石山に登ってみることにしました。雑草で荒れ果てた道を、ダンチクの密林の中をくぐりながら、昔の休憩所の近くまで漸くたどり着きました。すると、ハヤ



ブサが2羽岩の上に止まっていました。平山さんが苦勞して持ってきていたスコープで覗いてみると、鋭い目、かぎ状の嘴、太い足で岩場をつかんでこちら

を見ている姿を近くで見て感激しました。帰って野鳥図鑑で調べてみると、中近東などで鷹狩りに使われてきた猛禽、飛び方は水平飛行で時速100km前後と思われ、チーターの速さに匹敵している。鳥を食べることが多く、崖などに止まって獲物を探して見つけると、飛行中獲物の上空から急降下し、蹴落とす。断崖に営巣し広い場所

で狩りをするため、日本では海岸付近で多く見られると書かれてあった。石山に登る途中、竹やぶの中で、異様な鳥の羽ばたく音と鳴き声が聞こえて、ふと足を止めてみると、どうも鳥が何かに追われて藪の中に逃げ込んだらしく、しばらく藪の中でもがいていましたが、やっと自力で抜け出してきました。どうやらキジバトがハヤブサに追われていたようです。なんとか逃げ切れたようで一安心しました。3月、4月に



になると家の周辺でもウグイス、シジュウカラ、セグロセキレイ、イソヒヨドリ、ツバメ等、朝早くから賑やかな囀りが聞こえてきます。野鳥たちもそれぞれ相手探しで忙しそうですネ。これからも月1回の定例探鳥会で野山を歩いて野鳥たちに出会えることが一番の楽しみです。(ハヤブサ、オオルリ写真提供：松本敏和さん)

弓削野鳥の会のホームページが一新しました。鳥の写真がたくさん掲載され、見ごたえのあるホームページに出来上がりました。是非一度アクセスして御覧下さい。友人にも教えてあげて下さい。

HP アドレス (<http://www2.dokidoki.ne.jp/popo109/index.html>)